

# LPガス安全管理マニュアル

## 業務用にLPガスをご使用の皆さまへ

近年、業務用厨房内でのLPガス事故が増加傾向にあります。換気不足によるCO(一酸化炭素)中毒事故やガス漏えい事故は従業員だけでなくお客様(第三者)を巻き込む可能性がありますので、徹底した保安管理を実施する必要があります。

## 業務用厨房での主な事故

レストラン、食道、学校など、幅広い業種・施設で事故が増えています。

とくに近年、「CO(一酸化炭素)中毒事故」と「ガス漏えい事故」が増加の傾向にあります。

### CO(一酸化炭素)中毒事故

CO(一酸化炭素)中毒事故は、給気口をふさいだり、換気扇をしようしないで調理したり、「換気不良」が主な原因です。業務用厨房機器はガスの消費量が多くまた長時間使用するため「換気」はとくに重要となります。

### ガス漏えい事故

ガス漏えい事故は、「点火ミス(点火操作の繰り返し、未着火など)」「ガス栓・器具栓の誤開放」「器具劣化」が原因と挙げられ、とくに未着火、器具栓の誤開放による事故が目立ちます。“立消え安全装置付き燃焼き”などの設置をおすすめします。

## 点検・調査にご協力ください。

LPガスを安全にお使いいただくために、4年に1回以上(地下室などの設備は1年に1回以上)、点検・調査を行っております。LPガス販売事業者または認定を受けた保安機関が訪問した際はぜひご協力ください。

## 業務用LPガス設備（点検・調査を受ける設備）

### 供給設備

LPガス容器からガスメータの出口までを「供給設備」と呼ばれ、LPガス販売事業者が責任を持って点検と管理を行います

### 消費設備

ガスメータの出口からガス器具までを「消費設備」と呼ばれ、法律上の管理責任者は業務用消費者の皆様にあります。日常の点検・維持管理は皆様で行って下さい。

## 主な点検ポイント

①ガス栓まわり ②燃焼器まわり ③ガス漏れ警報器・CO警報器

### ①ガス栓まわり

ガス栓まわりの点検は、ガス漏れ防止の基本です。

## ガス栓は正しい使用で安全に

誤った接続や使い方はガス漏れや火災の原因となります！

使用していないガス栓にはゴムキャップを取り付けて下さい。

ガス使用後は、必ずガス栓や器具栓が閉まっていることを確認してください

## ゴムホースもしっかり確認

ゴムホースはときどき点検し、早めにとりかえてください！

ゴムホースを交換するときは、ゴムホースがガス栓の赤い線まで差し込まれているか確認してください。LPガス専用のオレンジ色のゴム管を使って下さい。

ゴムホースを必要以上に長くしたり、上にモノを置いたり、折れやねじれのないように接続してください。

三つ又は危険なので、絶対に使用しないでください。

ゴムホースは古くなると、ひび割れてくるのでガス漏れの原因になります。とくに、炎に近い場所にあるゴムホースや油で汚れたゴムホースは早めにお取替ください。

ホースバンド、燃焼機用ホースなどのゆるみ、ひび割れや接続部のゆるみに注意してください。

## ② 燃焼器まわり

火を扱う燃焼器まわりは、より慎重かつ確実な点検を。

### 燃焼器は細心の注意を払って安全に！

点火・消火は必ず目で確認して下さい。炎を目で確認しにくいグリルなどの器具はとくに注意してください。

煮こぼれや風の影響で火が消えたりすることがあります。ガス使用中はその場を離れないでください。

点火操作を繰り返しても着火しないときは、一度器具栓を閉めて、ガスを追い出してから点火して下さい。点火操作を繰り返して、器具に溜まったガスに引火する事故が発生しています。

### ご注意！

### ガス瞬間湯沸器をしようするとき

屋内に設置されたガス瞬間湯沸器は「不完全燃焼防止機能」が付いていても、自動的に消火する機能が頻繁に繰り返し発生する場合には“再点火”は絶対にしないでください。消火が何度も繰り返している間にCO(一酸化炭素)やLPガスが充満し、事故の原因となることがあります。

ガスの炎が黄っぽい・赤っぽいときは、不完全燃焼を起こしている危険性があります。このようなときは、すぐにLPガス販売業者に点検を依頼して下さい。

### ご注意！

### 給排気設備にご用心！

燃焼器だけでなく、給排気設備の点検も忘れずに点検して下さい。排気筒内や換気扇などに付着した油滴は火災の原因になります。

## ③ ガス漏れ警報器・CO警報器

ガス漏れ警報器やCO警報器は、事故を未然に防ぐ見張り番です。

### ガス漏れ警報器とは

空気より重いLPガスの性質を利用して燃焼器下の床に近い場所に設置し、ガス漏れを検知してブザーや音声でお知らせする装置です。

確実にガスが感知でき、点検などが容易にできる位置に取り付けてください。LPガスは空気よりも重いので床の上に溜まります。床から30cm以内、燃焼器から水平距離4m以内に取り付けて下さい。

水滴などが直接かかる場所、損傷されやすい場所、燃焼器と警報器の間に流れを遮断する障害物がある場所には設置しないでください。

清掃などで電源プラグを外したときは、電源プラグを必ず元通りにして下さい。

# CO警報器(不完全燃焼警報器)とは

不完全燃焼によって発生する燃焼排ガスのなかのCO(一酸化炭素)を感知して、ブザーや音声で警報をお知らせする装置です。

確実に燃焼排ガスが感知でき、点検などが容易にできる位置に取り付けて下さい。  
燃焼排ガスは空気より軽いので天井の近くに溜まります。天井から30cm以内、燃焼器具から水平距離4m以内に取り付けて下さい。

- このようなところに設置しないで下さい
- ・燃焼器の真上及び排気、湯気、油煙などが直接当たる場所
  - ・厨房設備などのかげになり燃焼排気ガスが流れにくい場所
  - ・給排気口の付近で、常時外気より燃焼排ガスが薄められるおそれがある場所

**ご注意！** ガス漏れ警報器・CO警報器には、有効期限があります。

**有効期限は  
5年 です！**

警報器には有効期限があります。交換時期が近づいたらLPガス販売業者に連絡して必ず取り替えてください。

## こんなに怖いCO(一酸化炭素)中毒事故

ガスが燃焼するためには、新鮮な空気(酸素)が必要です。  
空気が不足したままで使用していると不完全燃焼を起こし、CO(一酸化炭素)中毒により死に至ることもあります。

### 【一酸化炭素のからだに及ぼす影響】

一酸化炭素はきわめて強い毒性をもっておりますが、無色・無臭の気体でその存在にほとんど気がつきません。  
少し吸い込んだだけでも中毒事故につながります。

< 空気中におけるCO(一酸化炭素)濃度と症状 >

0.08% 45分間で頭痛・めまい・吐き気・けいれん、2時間で失神  
0.16% 20分間で頭痛・めまい・吐き気、2時間で死亡

**軽い中毒症状でも頭痛・吐き気・耳鳴りを起こし  
重症になると意識不明や死に至ることもあります。**

# もしも、ガスが漏れたら

ガスのニオイに気づいたときやガス漏れ警報器が鳴ったときなどに、あわてないためにも事前に誘導担当者を決め、風上の安全な場所への避難経路をきめておいてください



## ガス漏れ時の手順

### ❗ 火気は絶対に使用しないでください。

着火源となる換気扇、電気などのスイッチにも絶対に手を触れないでください。電気のスイッチは切る時にも火花がでます。切ることもしないで下さい。



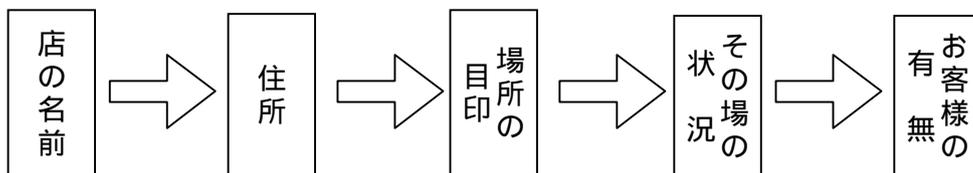
### ガスを外に追い出して

窓や戸を大きく開けて下さい。  
LPガスは空気より重いため、低いところに溜まったガスにも注意して下さい。  
すべての器具栓、ガス栓を閉めてください。  
容器バルブは必ず閉めてください。  
バルブの栓は時計まわりに回すと閉まります。



### ガス漏れの状況をすぐ連絡

すぐに「緊急連絡先」か「LPガス販売事業者」に連絡して下さい。  
LPガス販売事業者の安全確認が済むまでガスは使用しないで下さい。



◎「緊急時の連絡先」は、あらかじめLPガス販売事業者で確認しておいてください。

# 地震・火災・洪水が起きたときは

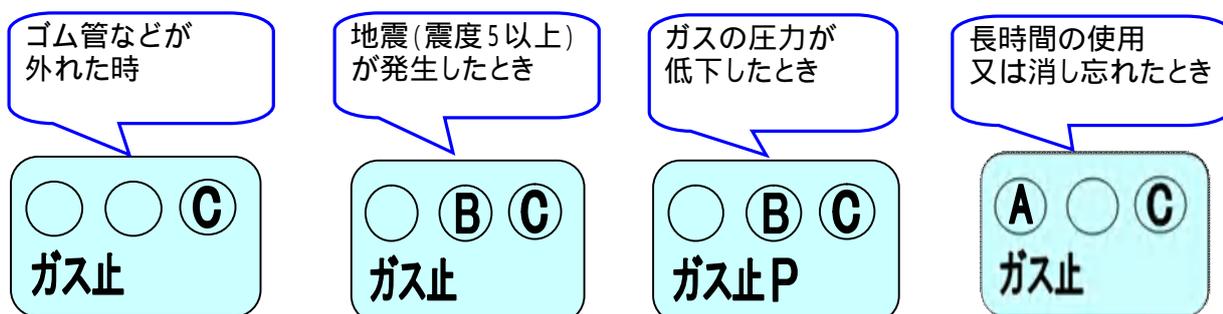
## 災害が起きたときの手順

器具栓、ガス栓及び容器バルブを閉めてください。  
バルブの栓は時計まわりに回すと閉まります。  
災害後にLPを使用する時は、LPガス販売業者に連絡し点検を受けてから使用して下さい。

◎災害後はLPガス販売事業者が順次点検を行います。連絡が取れない場合でも点検を受けるまで使用しないでください。

## こんな時マイコンメーターがガスを止めます。

LPガスの流れや圧力に異常があると、マイコンメーターが自動的にガスをしゃ断し、表示部にしゃ断原因が表示されます。



## ガス利用の再開手順

ガス利用の再開は、次のような手順で行って下さい。

異常がなければ、マイコンメーターを復帰することができます。

復帰しない場合は、復帰をくり返さずLPガス販売事業者の点検を受けて下さい。

### マイコンメーターの復帰方法

器具栓、ガス栓を全て閉めて下さい。

復帰ボタンを押して下さい。

「ガス止め」表示が消え、液晶の文字と赤ランプが点滅します。

赤ランプの点滅が止まり、液晶の文字が消えれば復帰完了です。

# 日常の点検と安全管理について

日々、注意していただきたいこと。

## 換気のチェック

ガスを使用するときは、必ず換気をしてください。

## 持ち場を離れるとき

煮こぼれや風の影響で火が消えることがあります。ガス使用中はその場を離れず、離れるときは必ず消火してから移ってください。

## 点火・消火のチェック

点火・消火ミスによる事故が増えています。必ず目で確認してください。使用後も器具栓がしっかりと閉まっているか確認してください。

## ガス使用時の引継ぎ

ガス使用中に勤務を交代する時は、あとの方にガスの使用状況などを伝えてから引継ぎを行ってください。

## ゴムホースのチェック

焼けこげやひび割れができていないか。ホースバンドでしっかり止まっているか。見過ごしやすいゴムホースのかくにんも忘れずに行ってください。

## レンジフード内のチェック

フード内に付いた油滴やほこりは排気筒内の火災の原因になります。こまめに掃除をしてください。

## 給排気口のチェック

給気口が荷物などでふさがっていないか確認してください。

## 閉店後のチェック

閉店後、お店を出る時は、器具栓、ガス栓が確実に閉まっているかを「指差し確認」を行ってください。

「LPガス保安連絡担当者」を選任してください。

3号メーター(3m<sup>3</sup>/h)以上のガスメーターを設置し、かつ、従業員が10名以上の料理飲食店・旅館・ホテル等では「LPガス保安連絡担当者」を選任してください。

LPガス  
保安連絡担当者の

## 役割

LPガス販売事業者との連絡窓口になっていただきます。  
LPガスの正しい使用方法や日常の安全管理などを従業員の皆様に周知してください。  
緊急時のお客様の避難誘導などについて対策を講じてください。  
始業時、終業時には次のことをチェックしましょう。  
始業・終業時にはガスメーターの表示をチェックしましょう。  
消費設備のガス漏れはガスメーターでもチェックできます。  
通常の使用においても、使用量が極端に多い場合は、原因をたしかめましょう。